

院長業績集 1 英語論文

1. [Subgroup Analysis Stratified by Baseline Pancreatic \$\beta\$ -cell Function in a Japanese Study of Dulaglutide in Patients with Type 2 Diabetes.](#)
Diabetes Ther. 2018 Feb;9(1):383-394
週 1 回注射でよい糖尿病の薬 GLP-1 受容体作動薬の効果が、2 型糖尿病患者さんがもつ自身のインスリン分泌能によって異なるかを検証。ある程度のインスリン分泌能がある場合には、効果に差が認められなかったという論文内容です。
2. [Incidence of diabetes mellitus and neoplasia in Japanese short-statured children treated with growth hormone in the Genetics and Neuroendocrinology of Short Stature International Study \(GeNeSIS\).](#)
Clin Pediatr Endocrinol. 2017;26(4):229-241
日本人の低身長のお子さんに成長ホルモンを投与した際の、15 年間にける長期間の安全性を評価した論文です。全体的に、小児への成長ホルモンの投与は、認容性に問題はありませんでした。
3. [Insulin lispro 25/75 and insulin lispro 50/50 as starter insulin in Japanese patients with type 2 diabetes: subanalysis of the CLASSIFY randomized trial.](#)
Endocr J. 2017 Jul 28;64(7):705-717.
インスリン製剤には様々な種類があり、超速効型成分（注射すると数十分で効果が認められるインスリン）の割合が 25%と 50%のインスリンでは、どちらが日本人の 2 型糖尿病患者さんに、より適しているかを検証した臨床試験です。食後の血糖値が高くなりやすい日本人では、50%の超速効成分が含まれたインスリンの方が良いかもしれないという結果。
4. [Analysis of efficacy and safety of dulaglutide 0.75 mg stratified by sex in patients with type 2 diabetes in 2 randomized, controlled phase 3 studies in Japan.](#)
Endocr J. 2017 May 30;64(5):553-560
週 1 回注射の GLP-1 受容体作動薬という糖尿病治療薬の効果や安全性が、性別により異なるかを検証した論文です。血糖降下作用に差はありませんが、体重減少効果は女性で高く、胃腸障害の有害事象発現も多かったという内容です。
5. [Pancreatic safety in Japanese patients with type 2 diabetes treated with once weekly dulaglutide 0.75 mg up to 52 weeks in phase 3 clinical trials.](#)
Endocr J. 2017 Feb 27;64(2):191-206.
週 1 回注射の GLP-1 受容体作動薬という糖尿病治療薬の膵臓への影響を検証した論文です。膵炎の既往や慢性膵炎以外の方に使用した場合には、一時的に膵酵素の上昇がみとめられることがあるが、特段の問題は認められなかったという内容です。
6. [Caveolin-1 facilitates internalization and degradation of ABCA1 and probuocol oxidative products interfere with this reaction to increase HDL biogenesis.](#)
Atherosclerosis. 2016 Oct;253:54-60.

善玉コレステロールである HDL コレステロールを産生する ABCA1 というタンパクの分解機構を解明しました。プルブコールという実際に臨床で使用されている脂質異常症のお薬の代謝産物が、HDL コレステロールを増加させる可能性を示しています。

7. [Impact of diet on the efficacy of insulin lispro mix 25 and insulin lispro mix 50 as starter insulin in East Asian patients with type 2 diabetes: Subgroup analysis of the Comparison Between Low Mixed Insulin and Mid Mixed Insulin as Starter Insulin For Patients with Type 2 Diabetes Mellitus \(CLASSIFY Study\) randomized trial.](#)
J Diabetes Investig. 2017 Jan;8(1):75-83.
糖尿病になる原因は、日本人を含む東アジア人と欧米人で異なることがわかっています。東アジア人では、インスリン治療を始める際に、インスリン製剤のタイプとして、超速効型成分（注射すると数十分で効果が認められるインスリン）の割合が25%と50%のインスリンでは、どちらが良いかを検証した大規模な臨床試験です。炭水化物（糖質）を多くとる集団では、50%のインスリンの方が血糖コントロールが良かったという結果でした。
8. [Comparison of insulin lispro mix 25 with insulin lispro mix 50 as an insulin starter in Asian patients with type 2 diabetes: a phase 4, open-label, randomized trial \(CLASSIFY study\).](#)
Diabetes Metab Res Rev. 2017 Jan;33(1).
9. [Once-weekly glucagon-like peptide-1 receptor agonist **dulaglutide** significantly decreases glycated haemoglobin compared with once-daily liraglutide in Japanese patients with type 2 diabetes: 52 weeks of treatment in a randomized phase III study.](#)
Diabetes Obes Metab. 2016 Mar;18(3):249-57.
10. [Once-weekly glucagon-like peptide-1 receptor agonist **dulaglutide** is non-inferior to once-daily liraglutide and superior to placebo in Japanese patients with type 2 diabetes: a 26-week randomized phase III study.](#)
Diabetes Obes Metab. 2015 Oct;17(10):974-83.
日本人2型糖尿病患者で、週1回と1日1回のGLP-1受容体作動薬の有効性と安全性を比較検証した論文です。いずれの薬剤も半年間で、HbA1c値が約1.4%低下したという結果でした。
11. [Subgroup analysis of phase 3 studies of dulaglutide in Japanese patients with type 2 diabetes.](#)
Endocr J. 2016;63(3):263-73
週1回注射のGLP-1受容体作動薬という糖尿病治療薬の有効性と安全性を、様々な要因（年齢・性別・体重・治療前血糖コントロール値など）で異なるかを層別解析にて検討した論文です。
12. [\[Pharmacological profile and clinical trial results of a long-acting, once weekly human GLP-1 receptor agonist Dulaglutide \(Genetical Recombination\)\].](#)
Nihon Yakurigaku Zasshi. 2015 Oct;146(4):215-24.
週1回注射のGLP-1受容体作動薬（デュラグルチド）という糖尿病治療薬の特徴をまとめた論文です。

13. [Deficiency in the Lipid Exporter ABCA1 Impairs Retrograde Sterol Movement and Disrupts Sterol Sensing at the Endoplasmic Reticulum.](#)
J Biol Chem. 2015 Sep 25;290(39):23464-77.
善玉コレステロールである HDL を産生する ABCA1 タンパクがない細胞では、ABCA1 がある細胞に比べて、細胞内コレステロールが多くなる一方で、細胞内のコレステロール量を検知するシステムは、コレステロールが少ないというシグナルを出しており、一見矛盾した現象が起きていることを新規に発見して報告した論文です。動脈硬化形成の重大なリスク因子であるコレステロールの細胞内輸送機構をあたらしく提示しました。
14. [Possible predictors for QOL improvement following GH replacement therapy in adult GHD.](#)
Endocr J. 2015;62(8):749-56
成人で成長ホルモンの分泌が不足すると、疲れやすかったり集中力が続かなかったり、やる気がなくなったりなどの生活の質 (QOL) に悪い影響があることが分かっています。成長ホルモンを補充した際に QOL が改善する患者さんには、どのような特徴があるのかを分析して報告しました。成長ホルモン分泌不全症の患者さんは、脂質異常症や肥満などの生活習慣病を合併することが多いのですが、QOL が改善した患者さんは、血糖値が良くなっていることが、予測因子の 1 つとして示唆されました。
15. [Effect of growth hormone treatment on quality of life in Japanese children with growth hormone deficiency: an analysis from a prospective observational study.](#)
Clin Pediatr Endocrinol. 2014 Jul;23(3):83-92.
小児の低身長患者さんに成長ホルモンを投与した際にも、生活の質 (QOL) が改善することを報告しました。
16. [Proteomic analysis of proteins eliminated by low-density lipoprotein apheresis.](#)
Ther Apher Dial. 2014 Feb;18(1):93-102.
遺伝的にコレステロールが高い患者さん (家族性高コレステロール血症ホモ接合型) は、内服薬だけでは、適切なコントロールができず早期に動脈硬化になるため、一度血液を体外に出し、悪玉のコレステロールをカラムに吸着する治療 (LDL アフェレシス) を実施します。その患者さんの血液とカラムに吸着された蛋白質を分析した論文です。
17. [Defining patients at extremely high risk for coronary artery disease in heterozygous familial hypercholesterolemia.](#)
J Atheroscler Thromb. 2012;19(4):369-75
家族性高コレステロール血症の患者さんは、狭心症や心筋梗塞などの冠動脈疾患になりやすいことが報告されていますが、その中でもさらにリスクの高い要因が何かを分析した論文です。悪玉コレステロール (LDL-C) 値が異常高値であることと、アキレス腱の厚さがさらに重要なリスク因子であることが示唆されました。

18. [Calpain-mediated ABCA1 degradation: post-translational regulation of ABCA1 for HDL biogenesis.](#)
Biochim Biophys Acta. 2012 Mar;1821(3):547-51.
善玉コレステロールを産生する重要な蛋白質 ABCA1 のタンパク分解機構についてのレビュー論文です。院長がもっとも尊敬する先生がまとめられました。
19. [HMG-CoA reductase inhibitors enhance phagocytosis by upregulating ATP-binding cassette transporter A7.](#)
Atherosclerosis. 2011 Aug;217(2):407-14.
世界で最も使用されているスタチンというコレステロール低下剤が、ABCA7 という蛋白質を増加させることによって、細胞の貪食能（細菌などの異物を取り込む作用）が増加することを報告しました。最近、ABCA7 の遺伝子多型がアルツハイマー病と関連していることが報告されていて、今後この ABCA7 タンパクも注目されそうです。
20. [Protein kinase D regulates the adiponectin gene expression through phosphorylation of AP-2: a common pathway to the ABCA1 gene regulation.](#)
Atherosclerosis. 2011 May;216(1):90-6.
善玉コレステロールの産生に重要な ABCA1 の遺伝子発現に関わる転写調節因子 AP2 が、脂肪細胞から分泌される善玉アディポカイン（アディポネクチン）の遺伝子調節にも関与していることを報告いたしました。26 の続編になります。
21. [Roles of ATP-binding cassette transporter A7 in cholesterol homeostasis and host defense system.](#)
J Atheroscler Thromb. 2011;18(4):274-81
生体の防御システムに関連する貪食反応に関与する可能性がある ABCA7 のコレステロール代謝における役割についてまとめた論文です。
22. [Helical apolipoproteins of high-density lipoprotein enhance phagocytosis by stabilizing ATP-binding cassette transporter A7.](#)
J Lipid Res. 2010 Sep;51(9):2591-9.
善玉コレステロール（HDL-C）の構成成分であるアポタンパク質が ABCA7 の発現を安定化し、貪食反応を増強することを報告しました。
23. [Calmodulin interacts with ATP binding cassette transporter A1 to protect from calpain-mediated degradation and upregulates high-density lipoprotein generation.](#)
Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2010 Jul;30(7):1446-52.
善玉コレステロールを産生する ABCA1 の細胞内タンパク分解機構を解明した論文です。どうしたら、HDL コレステロールが増やせるかという命題を解くヒントになるかもしれません。
24. [Pharmacological inhibition of ABCA1 degradation increases HDL biogenesis and exhibits antiatherogenesis.](#)
J Lipid Res. 2009 Nov;50(11):2299-305.
プロブコールという実際に使用されている脂質異常症のお薬の代謝産物を

ネズミに投与すると、善玉コレステロールの HDL が増加し、しかも動脈硬化が抑制されたことを報告した論文です。2018 年現在でも、善玉コレステロールを特異的に増加して動脈硬化を抑制するお薬はありません。夢のある研究内容です。

25. [FGF-1 induces expression of LXRA and production of 25-hydroxycholesterol to upregulate the apoE gene in rat astrocytes.](#)
J Lipid Res. 2009 Jun;50(6):1156-64.
FGF-1 という人体にも存在する成長因子が、HDL を構成するアポタンパク アポ E の遺伝子発現を増加することを発見し、そのメカニズムにせまった研究を報告しました。
26. [Involvement of protein kinase D in phosphorylation and increase of DNA binding of activator protein 2 alpha to downregulate ATP-binding cassette transporter A1.](#)
Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2008 Dec;28(12):2282-7.
AP2 という転写調節因子が、PKD というキナーゼ（タンパクの機能を活性化する役割をもつ）により DNA と結合し、善玉コレステロールの産生に重要な ABCA1 の遺伝子発現を調節していること報告した論文です。30 の続編になります。
27. [ApoA-I facilitates ABCA1 recycle/accumulation to cell surface by inhibiting its intracellular degradation and increases HDL generation.](#)
Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2008 Oct;28(10):1820-4.
善玉コレステロール（HDL-C）を構成するアポリタンパク A-I が、善玉コレステロールを産生する ABCA1 のタンパク分解を抑制するメカニズムを報告しました。生化学および薬理学的手法を使って、ABCA1 蛋白質の細胞内動態を明らかにしています。
28. [Biogenesis of HDL by SAA is dependent on ABCA1 in the liver in vivo.](#)
J Lipid Res. 2008 Feb;49(2):386-93.
体内で炎症反応が認められた時に産生される SAA というタンパクが、肝臓において ABCA1 蛋白質と反応して HDL を産生することを報告しました。
29. [Telmisartan enhances cholesterol efflux from THP-1 macrophages by activating PPARgamma.](#)
J Atheroscler Thromb. 2007 Jun;14(3):133-41.
高血圧のお薬（ARB）が、転写因子である PPAR γ を刺激し、ABCA1 の活性化を通じて、細胞に溜まったコレステロールを細胞外に排出して、動脈硬化を抑制する可能性を示唆した論文です。
30. [ATP-binding cassette transporter A1 gene transcription is downregulated by activator protein 2alpha. Doxazosin inhibits activator protein 2alpha and increases high-density lipoprotein biogenesis independent of alpha1-adrenoceptor blockade.](#)
Circ Res. 2007 Jul 20;101(2):156-65.
高血圧のお薬（ α ブロッカーの一部）が善玉コレステロールの産生を増やし、動脈硬化を減らす可能性を示唆した論文です。当院長の博士号学位論

文で、日本動脈硬化学会 若手研究者最優秀賞および名古屋市立大学大学院 学位論文の最優秀賞を受賞しました。

31. [ABCA7 expression is regulated by cellular cholesterol through the SREBP2 pathway and associated with phagocytosis.](#)
J Lipid Res. 2006 Sep;47(9):1915-27.
ABCA7というタンパクが、これまでの予想に反して細胞内のコレステロールが少なくなった時に発現が増加することを発見しました。また ABCA7 蛋白質が、細胞の貪食作用に関係していることを世界で初めて報告した論文でもあります。当院長が、国際動脈硬化学会 若手研究者奨励賞を受賞した研究で、最近になって、ABCA7の遺伝子多型が、社会的に現在問題となっているアルツハイマー病と関連していることが多く報告されるようになりました。
32. [Serum amyloid A generates high density lipoprotein with cellular lipid in an ABCA1- or ABCA7-dependent manner.](#)
J Lipid Res. 2006 Jul;47(7):1542-50
体内で炎症反応が認められた時に産生される SAA というタンパクが、ABCA1 や ABCA7 タンパク存在下で、HDL を産生することを報告しました。
33. [Glucocorticoid receptor regulates ATP-binding cassette transporter-A1 expression and apolipoprotein-mediated cholesterol efflux from macrophages.](#)
Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2006 Jan;26(1):163-8.
糖質コルチコイド（ステロイド）が炎症に重要な働きをもつマクロファージという細胞に作用した際に、細胞内のコレステロール排出能が低下するメカニズムを報告しました。院長が尊敬する先輩医師の一人である綾織先生がまとめられて報告しました。
34. [Effect of lipid-lowering therapy with atorvastatin on atherosclerotic aortic plaques detected by noninvasive magnetic resonance imaging.](#)
J Am Coll Cardiol. 2005 Mar 1;45(5):733-42.
スタチン投与によって、大血管の動脈硬化が退縮することを MRI を用いて証明した、臨床的に大変重要な示唆を与えた論文です。当院長が公私にわたりお世話になっている神戸市垂水区のよねむらクリニック院長 米村先生がまとめられて報告いたしました。
35. [Characterization of the expression of TLR2 \(toll-like receptor 2\) and TLR4 on circulating monocytes in coronary artery disease.](#)
J Atheroscler Thromb. 2005;12(1):53-60.
自然免疫に関与する TLR2 と TLR 4 の白血球における発現レベルによって、冠動脈疾患の有無を予測できるかを検討した論文です。
36. [Gln27Glu beta2-adrenergic receptor variant is associated with hypertriglyceridemia and the development of fatty liver.](#)
Clin Chim Acta. 2001 Dec;314(1-2):85-91.
 β 3 アドレナリン受容体の遺伝子多型が肥満と関係することが報告されて

いますが、本研究ではβ2アドレナリン容体の遺伝子多型が高中性脂肪血症と脂肪肝の発症に関与している可能性を報告いたしました。

日本語論文

1. 週1回投与製剤デュラグルチドを投与予定日に投与しなかった場合の対処法に関する検討
Progress in Medicine(0287-3648)38巻3号 Page293-300(2018.03)
2. 週1回投与 GLP-1 受容体作動薬デュラグルチドの1週間持続した血糖降下作用
Progress in Medicine(0287-3648)36巻11号 Page1571-1577(2016.11)
3. 新薬の紹介 持効型 GLP-1 受容体作動薬 デュラグルチド(遺伝子組換え)注射液(トルリシティ皮下注0.75mg アテオス)
日本病院薬剤師会雑誌(1341-8815)51巻12号 Page1477-1479(2015.12)
4. 新薬紹介総説 週1回投与が可能な持効型 GLP-1 受容体作動薬デュラグルチド(遺伝子組換え)の薬理学的特性および臨床試験成績
日本薬理学雑誌(0015-5691)146巻4号 Page215-224(2015.10)
5. 骨端線閉鎖を伴わない軟骨異栄養症(軟骨無形成症・軟骨低形成症)に対する growth hormone の使用成績 Humatrope 製造販売後調査より
小児内科(0385-6305)45巻10号 Page1901-1908(2013.10)
6. 濃厚な大動脈瘤の家族歴を有する家族性高コレステロール血症の1例
Progress in Medicine(0287-3648)32巻8号 Page1743-1748(2012.08)
7. 【アフェレシス Update-各科領域における進歩と展望】 脂質異常症に対するアフェレシス療法の現況
臨床透析(0910-5808)27巻12号 Page1555-1560(2011.11)
8. FH ホモ接合体合併妊娠4症例とその管理
Progress in Medicine(0287-3648)31巻12号 Page2894-2900(2011.12)
9. PKD/AP-2 による ABCA1 と adiponectin の遺伝子発現の共通情報伝達系
脂質生化学研究(0285-1520)53巻 Page216-219(2011.04)
10. 【閉塞性動脈硬化症(ASO) 「一生涯、自分で歩く」をモットーに…ASOの基礎から実践まで】 治療 LDL アフェレシス
治療(0022-5207)93巻4号 Page655-660(2011.04)
11. 禁煙をはじめとする動脈硬化性因子の管理 ASO の診療は、血流障害だけではない! 脂質異常症専門医の立場から
治療(0022-5207)93巻4号 Page619-622(2011.04)
12. 【血圧・血糖・脂質マネジメント 多面的効果を考慮した処方を考える】

診療ガイドラインからみた血圧・血糖・脂質管理と薬物治療のトレンド
脂質異常症

薬局(0044-0035)62巻5号 Page2422-2429(2011.04)

13. 家族性高コレステロール血症と LDL アフェレシス
日本医事新報(0385-9215)4520号 Page75-74(2010.12)
14. 生活習慣病のための検査 検査値をどうみるか(第16回) 家族性高コレステロール血症に関する検査
Life Style Medicine(1881-5421)4巻4号 Page361-367(2010.10)
15. PCSK9 と ARH 遺伝子異常による原発性高コレステロール血症
Medical Technology(0389-1887)38巻10号 Page975-976(2010.10)
16. 【HDL を再考する】 ABCA1 とその活性制御を探る
Vascular Medicine(1880-2478)5巻2号 Page117-126(2009.04)
17. 動脈硬化 Update 2007 ABCA 蛋白質の新規機能とその制御機構に注目した動脈硬化治療技術の基礎研究
Therapeutic Research(0289-8020)29巻2号 Page175(2008.02)
18. 【循環器疾患の予防医学】 梗塞と動脈硬化の予防
呼吸と循環(0452-3458)52巻1号 Page13-21(2004.01)
19. 大豆タンパク摂取がレムナント様リポタンパクコレステロール及びビタミン E に及ぼす影響(Effects of Soy Protein on Levels of Remnant-like Particles Cholesterol and Vitamin E in Healthy Men)(英語)
Journal of Nutritional Science and Vitaminology(0301-4800)47巻4号 Page283-288(2001.08)
20. 【脂質・リポ蛋白代謝の分子機構】 アポリポ蛋白 C-I
日本臨床(0047-1852)59巻増刊2高脂血症(上) Page114-119(2001.02)
21. 冠動脈造影所見と LDL 直接測定法
Progress in Medicine(0287-3648)19巻5号 Page1252-1255(1999.05)
22. 【臨床ナースのための疾患別 データブック】 高脂血症
臨床看護(0386-7722)25巻6号 Page895-897(1999.05)

学会発表

1. 2型糖尿病患者を対象としたデュラグルチドの国内第 III 相試験における膵β細胞機能のベースライン値による有効性の層別解析
日本糖尿病学会 2017
2. ABC トランスポーター ABCA1 はダイナミン依存性エンドサイトーシスを介したステロール逆行輸送を調節する
日本生化学会大会・日本分子生物学会年会合同大会 2015

3. アジア人2型糖尿病患者に対するインスリン導入療法としてのインスリンリスプロ混合製剤25と50の比較試験 日本人部分集団解析結果
日本糖尿病学会 2016
4. 週1回投与製剤デュラグルチド0.75mgの投与忘れに気づいたとき、すぐに投与すべきか?
日本糖尿病学会 2016
5. 2型糖尿病患者を対象としたデュラグルチド0.75mgの国内第III相試験における性別による有効性及び安全性の層別解析
日本糖尿病学会 2016
6. 日本人2型糖尿病患者におけるデュラグルチド0.75mgの膵臓に対する影響
日本糖尿病学会 2016
7. 日本人2型糖尿病患者におけるデュラグルチド0.75mgの胃腸障害(悪心、嘔吐、下痢及び便秘)の発現時期及び持続期間の検討
日本糖尿病学会 2016
8. アジア人2型糖尿病患者に対するインスリン導入療法としてのインスリンリスプロ混合製剤25と50の比較
日本糖尿病学会 2015
9. 2型糖尿病患者における週1回投与 dulaglutide 単独療法の有効性及び安全性 プラセボ及びリラグルチド対照並行群間比較試験
日本糖尿病学会 2015
10. Dulaglutide の有効性・安全性に対する患者背景の影響 日本人2型糖尿病患者における第三相試験併合解析
日本糖尿病学会 2015
11. 新規週1回投与 GLP-1 受容体作動薬デュラグルチドの1週間持続した血糖降下作用
日本糖尿病学会 2015
12. 成人GHDに対するGH補充療法のQOL改善効果を予測する因子の検討
日本内分泌学会 2014
13. FH患者のLDL-A治療で除去される動脈硬化危険因子の検討
日本アフェレシス学会 2011
14. LDL-Apheresis 施行中の血圧低下に対する当院における対応
日本アフェレシス学会 2011
15. LDLアフェレシスの新たな展開 FH診療におけるLDLアフェレシス治療の適応と限界
日本アフェレシス学会 2011
16. 家族性高コレステロール血症(FH)の遺伝子解析とPCSK9変異の臨床的

特徴

- 日本循環器学会 2011
17. ホモ接合体型家族性高コレステロール血症の妊婦 4 例における妊娠・分娩の管理
日本循環器学会 2011
 18. スタチンによる宿主防御システムの強化における分子学的基盤
日本循環器学会 2011
 19. 2 型糖尿病患者における非侵襲的検査法デュアルスキャンによる内臓脂肪量の評価の有用性の検討
日本糖尿病学会 2012
 20. 2 型糖尿病患者において大血管障害の発症と関連する因子についての検討
日本糖尿病学会 2012
 21. 2 型糖尿病患者における非侵襲的検査法デュアルスキャンによる内臓脂肪量の評価
日本内科学会 2012
 22. 顕性蛋白尿を認めない糖尿病患者における慢性腎臓病と末梢動脈疾患の関連
日本内科学会 2012
 23. HMG-CoA 還元酵素阻害剤は ABCA7 をアップレギュレートすることにより食作用を促進する
日本生化学会大会・日本分子生物学会年会合同大会 2010
 24. 2 型糖尿病患者における高脂肪食負荷時の活性型グレリン測定の意義
日本内分泌学会 2011
 25. LDLR 遺伝子と PCSK9 遺伝子変異の組み合わせと LDL-C 値に関する検討
家族性腫瘍 2011
 26. LDLR 遺伝子と PCSK9 遺伝子変異の組み合わせと LDL-C 値に関する検討
日本遺伝カウンセリング学会 2011
 27. 2 型糖尿病患者において末梢血 CD34+細胞数の低下は冠動脈疾患発症に関連する
日本糖尿病学会 2011
 28. 2 型糖尿病患者におけるテストミール負荷時の活性型グレリンの変化
日本糖尿病学会 2011
 29. DPP4 阻害薬の治療効果に影響する因子及び患者背景の検討
日本糖尿病学会 2011
 30. 多腺性自己免疫症候群 3 型が鑑別に挙げられた 2 例
日本内分泌学会 2010

31. HDL と生体防御作用 apoA-I の ABCA7 安定化による食作用の促進
日本生化学会大会 2009
32. Protein Kinase D による転写調節因子 AP2 を介した ABCA1 の転写調節メカニズム(英語)
日本動脈硬化学会総会 2008
33. 炎症性疾患における SAA 産生、血中濃度上昇と ABCA1
日本整形外科学会 2007
34. アストロサイトにおける FGF-1 により apoE-HDL 生合成の促進は LXR 依存である(英語)
日本動脈硬化学会総会 2007
35. SAA と ABCA1 の相互作用(英語)
日本動脈硬化学会総会 2007
36. HDL 代謝研究の最近の進歩 ABCA1 の新規転写活性制御機構 HDL 増加薬開発のあらたな標的遺伝子
日本動脈硬化学会総会 2007
37. SAA-HDL と ABCA1 レベルの変動
日本動脈硬化学会総会 2006
38. ATP 結合カセット輸送体 A7 発現は SREBP2 経路を通じて細胞性コレステロールによって負に調節された食作用活性と近い関連がある
日本動脈硬化学会総会 2006
39. SAA による HDL 新生反応
日本動脈硬化学会総会 2005
40. プラバスタチンおよびコレステミドの炎症・LDL 酸化変性マーカーに及ぼす影響
日本動脈硬化学会総会 2005
41. ABCA1KO および野生型マウスにおける ABCA7 発現分布の解析
日本動脈硬化学会総会 2005
42. Serum amyloid A による細胞コレステロール放出
日本動脈硬化学会総会 2005
43. ABCA1 KO および野生型マウスにおける ABCA7 発現分布とコレステロール負荷における変化
日本生化学会 2005
44. Serum amyloid A 含有 HDL の産生機序と特性
脂質生化学研究会 2005
45. ABCA1KO マウスにおける ABCA7 発現分布とコレステロール負荷による変化

脂質生化学研究会 2005

46. 乳癌患者における選択的エストロゲン受容体モジュレーター(SERM)とアロマトラーゼ阻害剤の脂質代謝に及ぼす影響の比較
日本動脈硬化学会総会 2003
47. 冠動脈疾患患者で Malondialdehyde-modified LDL(MDA-LDL)が上昇する
日本動脈硬化学会総会 2003
48. マクロファージにおける ABCA1 のグルコシルコイド受容体による転写調節
日本動脈硬化学会総会 2003
49. 拡張不全による心不全と両側胸水貯留を初発症状とした若年者の T 細胞リンパ腫の 1 例
日本内科学会 2004
50. 間接喫煙により血中 CRP が増加する
日本動脈硬化学会総会 2002
51. THP-1 macrophage における ABCA1 のグルコシルコイド受容体による発現調節
日本動脈硬化学会総会 2002
52. 抗不整脈薬投与により心房粗動の房室伝導促進が示唆された心筋梗塞の 1 症例
日本集中治療医学会 2003
53. 肉眼的血尿および右膝窩部内巨大血腫を呈した第 5 因子インヒビターの 1 例
日本内科学会 2002
54. 肺蘇生後 PCPS を使用し軽快した冠攣縮性心筋梗塞 1 症例
日本循環器学会 2002
55. $\beta 2$ アドレナリン受容体遺伝子多型(codon27)と血清脂質,脂肪肝との関連について
日本糖尿病学会 2002
56. 冠動脈疾患における血漿 VEGF 濃度の検討
日本内科学会 2001
57. 急性冠症候群におけるアラキドン酸の関与 赤血球膜の含量と食事による摂取量からの検討
日本内科学会 2000
58. ウーロン茶が脂肪負荷後のレムナントリポ蛋白及び凝固線溶系に及ぼす影響
日本動脈硬化学会総会 1999

59. 冠動脈造影所見と LDL 直接測定値

日本動脈硬化学会総会 1999

60. 冠動脈疾患における血漿ホモシステイン濃度についての検討

日本動脈硬化学会総会 1999